

サイバーセキュリティに係る人材の確保、育成、活躍の促進に係る政策課題の
当面の検討の進め方について

令和2年7月31日

普及啓発・人材育成専門調査会会長

1. 趣旨

- デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展が予想される中、DXと同時にサイバーセキュリティ対策を組み込んでいくこと（DX with Cybersecurity）が求められている。また、新型コロナウイルス感染症への対応を契機に、新たなデジタル技術の活用は更に重要になってくると考えられる。こうした中、新たなサイバーセキュリティ戦略の策定を見据え、この1年、本専門調査会において、DX時代におけるサイバーセキュリティ人材の確保、育成、活躍の促進に係る政策課題について検討を進めることが重要と考える。
- これまでの本部会合や本専門調査会の議論を踏まえつつ、主な政策課題を事務局と抽出してきたところ、現時点で以下の3つが挙げられる。当面、これらについて、本専門調査会での議論・検討を深めたい。それ以外の課題が抽出されれば、随時あるいは合わせて議論・検討を行うこととする。

2. 検討を深めるべき主な政策課題

- サイバーセキュリティ確保のための新たな開発・監視・対処体制の構築
DXでは、セキュリティを組み込んだ迅速で柔軟な事業・製品・サービスの開発体制が必要になるとともに、デジタル化やIT・ネット活用の社会・生活への拡大に伴う新たなインシデントへの対応が求められると考えられる。そこで、この新たな開発体制や監視・対処体制の構築や普及に向けた方策について検討する。
【アドバイザー委員：鎌田委員、蔵本委員】
- DXに必要な「プラス・セキュリティ」知識を補充できる環境・人材育成の推進
DXでは、ユーザ企業の主体的なIT活用とDX実施が必要になると考えられる。そこで、DXに関わる経営・事業を担う者が「プラス・セキュリティ」知識を補充できる環境や人材育成を推進するための方策について検討する。
【アドバイザー委員：藤本委員、三浦委員】
- サイバーセキュリティ人材の活躍の促進に向けた流動性とマッチングの機会の促進
様々な分野でDX with Securityの進展が予想される一方、いわゆるユーザ企業においてIT・セキュリティ人材が不足し、ベンダー、大企業、都市圏に偏重しているとの指摘がある。セキュリティ人材の活躍の場を広げ、キャリアパスの魅力を高めるとともに、流動性とマッチングの機会が促進されるための方策について検討する。
【アドバイザー委員：志済委員、下村委員】

※アドバイザー委員：政策課題の検討を深めるため、事務局が行う専門調査会の資料等の準備やとりまとめ草案作成への協力・助言、外部専門家を交えた予備的な議論への参画等の役割を担い、専門調査会での議論・検討を促進する。